



# 標本から学ぶ生き物の不思議

【個人出展】

宝仙学園中学高等学校(東京都) 谷戸 崇

## ●どんな観察なの？

自然の中で出会える動物の標本を展示し、生き物の不思議について実際に標本や実物を観察したり、触ったりしながら学んでもらいます。身近なニワトリの手羽先からも生き物の不思議を学ぶことができます。

## ●観察のしかたとコツ

### 【用意するもの】

タヌキ・ネズミなどの頭骨、鳥の竜骨突起、アオダイショウ、ニワトリの手羽先、なべ

### 【観察のしかた】

#### I. 標本の見所（標本は消毒してあります）

- (1)骨を見てどんな動物かまずは想像してみましょう。
- (2)歯の形からどのようなものを食べているか考えてみましょう。また、何を食べるのに役立っているかヒトの歯と比べてみましょう。臼（うす）状の形の歯は植物などをすりつぶすのに役立ちます。とがった歯は肉をかみ切るのに役立ちます。
- (3)鳥の胸にある板状の骨の役割を考えてみましょう。鳥の胸の筋肉を支えるために発達しました。

#### II. ニワトリの手羽先から骨格標本の作り方

- (1)手羽先をゆでる前に中にどんな骨が入っているのか想像してみましょう。とくに、ヒトの身体のどこの部分に対応をしているか考えてみましょう。
- (2)手羽先をゆでます。  
手羽先を鍋に入れ、水を入れ10分間ゆでます。手羽先の本数は、水からはみ出ないように調節します。骨のまわりの肉が白くなるまでゆでます。
- (3)ゆであがったら、骨を壊さないように気をつけて、肉を取り除いていきましょう。
- (4)骨をきれいに洗って良く乾かします。標本箱や、プラスチックのケースに入れたら完成です。乾燥剤や防虫剤を一緒に入れておくとカビや虫から標本を守ることができます。

## ●気をつけよう

標本を触った後は手を洗いましょう。

## ●もっとくわしく知るために

- ・大阪市立自然史博物館編著「標本の作り方-自然を記録に残そう」東海大学出版会（2007）
- ・盛口満著「フライドチキンの恐竜学」ソフトバンククリエイティブ株式会社（2008）



図1 タヌキの頭骨



図2 ネズミの頭骨



図3 ニワトリの手羽先骨

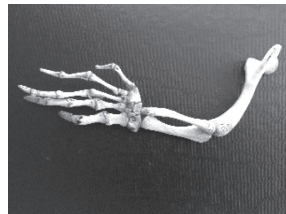


図4 スッポンの腕の骨